

厚生省は 1 月 30 日、2015 年度の公的年金の支給額が、原則として前年度比 0.9%増になると発表した。

2015 年度の「マクロ経済スライド」の初適用で調整率（抑制率）を 0.9%にしたため、本来の伸びの半分にとどまった。

年金支給額は、賃金や物価程伸びないことになり、4 月からの受給額は少し増えても、実質的には目減りする。

2015 年度の年金は、過去の賃金上昇率が平均 2.3%増だったことをそのまま反映させれば、2.3%増になるが、現在の年金支給額は 0.5%分「払い過ぎ」の状態だ。この払い過ぎ解消後の本来の伸びは 1.8%で、今年の「マクロ経済スライド」の調整率 0.9%を差し引けば、全体で 0.9%の伸び率となる。

この結果、4月から厚生年金の例では、夫婦 2 人の標準的世帯で月額 22 万 1,507 円（前年度比 2,441 円増）となる。年金は 4、5 月の 2 か月分が、6 月にまとめて支給される。なお、総務省が同日発表した 2014 年の全国消費者物価指数は、前年に比べて 2.6%上昇した。これは 2 年連続で伸び率は 23 年ぶりの高水準で、2 年連続のプラス上昇は 16 年ぶりだといえる。

【付 記】 11 月 30 日[いいみらい]は、年金の日という厚生労働省が出した新聞広告のキャッチコピーです。

会員の皆さんはこの「年金の日」いつなのかご存知でしたか？

サブタイトルに、「高齢者の生活設計に思いを巡らしていただく日です。」とあり、本文は — 「年金の日」には、インターネットで最近の年金記録確認や将来の年金受給見込額の試算ができる「ねんきんネット」をご活用ください。

詳しくは [ねんきんネット](#) [検索](#) ← スマホからもアクセス可能！

最近は、お役所も変わりました。国民に向けて年金に興味・関心をもって欲しいという啓発活動です。
(2014/12 読売新聞から)